

# 北海道建築士

HOKKAIDO KENCHIKUSHI 2016.10.No230

10月号

## 目次

前回に続き信任投票で代議員 37名が決定.....	1
特集 平成27年度北海道 赤レンガ建築賞受賞作品.....	2
情報委員会取材.....	4
被災地応急支援委員会.....	5
青年・女性の怒.....	6
[No.78 HOKKAIDO 建築士会 女性委員会]	
Coffee Break.....	7
information.....	8

URL <http://www.h-ab.com/>

## 前回に続き信任投票で代議員37名が決定

(一社)北海道建築士会 代議員選挙管理委員会  
委員長 成田茂利 (恵庭支部)

### 代議員が決定しましたのでお知らせいたします。

◆9月1日に正会員の皆様へ通知し行われました信任投票の結果、特定の候補者が当選人となることについて、選挙人からの異議が述べられなかったため、一般社団法人北海道建築士会代議員選挙規則第18条第5項により、当該特定の候補者について信任する旨の投票をしたものとみなし、9月15日をもって当該特定の候補者を当選人（代議員）に決めました。

#### ◆一般社団法人北海道建築士会代議員選挙規則（抜粋）

○第18条第5号

選挙人が前項第3号（特定の候補者が当選人となることについて、選挙人が9月1日から15日までに書面で異議を述べることができる。）の期間内に特定の候補者が当選人となることについて異議を述べなかったときは、当該当選人は、当該特定の候補者について信任する旨の投票をしたものとみなす。

#### ◆代議員一覧

支部名	代議員名	支部名	代議員名	支部名	代議員名	支部名	代議員名
札幌	井上 勝己	後 志	佐藤 裕	旭 川	米本 一恵	美 幌	伊藤慶三郎
札幌	池田 浩司	岩 内	上野 憲之	士 別	土岐 浩二	紋 別	高野 昭一
札幌	内海 純一	余 市	赤石 達也	富良野	林 誠	遠 軽	高橋 利己
千 歳	吉川 政二	古 平	堀江 昭夫	上富良野	健名 康則	宗 谷	片山 徹也
恵 庭	歳桃 勝幸	室 蘭	半崎 敏裕	名 寄	遠藤 光博		
北広島	関川 修司	苫小牧	用田 史門	十 勝	奥 周盛		
石 狩	佐藤 壽治	日 高	土井宗太郎	釧 路	金子ゆかり		
函 館	山内 一男	空 知	仁志 紘一	根 室	山口 耐一		
函 館	工藤 誠	北空知	小川 広見	中標津	佐々木 優		
檜 山	佐藤 久	留 萌	小幡 光男	網 走	塩川 顕児		
小 樽	鈴木 道夫	旭 川	富田 秀彦	北 見	因 芳広	計	37名

#### ◆代議員の任期

平成28年代議員選挙終了日から平成30年代議員選挙終了日まで

# 平成27年度 北海道赤レンガ建築賞受賞作品 札幌三井JPビルディング 札幌市北3条広場



## ■建築主

三井不動産株式会社  
日本郵便株式会社

## ■設計者

株式会社日本設計  
鹿島建設株式会社

## ■施工者

鹿島建設株式会社

## ■建築概要

所在地：

札幌市中央区北2条西4丁目及  
び北3条西4丁目

主要用途：

事務所、店舗、地域冷暖房施設

構造及び階数：

S、一部RC・SRC造 20/B3  
階建

建築面積：4,550.28㎡

延べ面積：68,192.35㎡

竣工年月日：平成26年8月1日

## □企画の特徴（地域との関わりなど、特に配慮した点）

道庁赤れんが庁舎から東側の市道約100mを札幌市北3条広場（以下「広場」）として整備することで、市民や国内外の観光客が憩い、さまざまな活動が行われる新たな場所が生まれた。この「広場」は、都市再生特別地区の制度を活用し、札幌三井JPビルディング（以下「本ビル」）の公共貢献として民間事業者により整備されたもので、北海道開拓の原点である道庁赤れんが庁舎への象徴的なビスタをうけついで、北海道ならではの品格ある風景を創出している。「本ビル」は、札幌駅南と大通り以南の二極に分断されていた街の活力を繋ぐ大きな役割を担っている。これらは都心まちづくりを先導するプロジェクトであり、歴史文化資産を保全・活用し、様々な都市機能を高度に集約して、都心の二極を一本の太い軸に変換し、上質な都市の豊かさを醸成している。

## □設計の特徴

「本ビル」は、以下を代表とする様々な公共的空間を通じて、周辺都市環境・地域文化に貢献している。

- ① 「アトリウムテラス」：緑あふれる屋内空間として市民の誰もが自由にくつろげる場を提供。
- ② 建物内を貫通する公共通路：東西・南北に貫通する公共通路を設け、都市の利便性に寄与。
- ③ 駅前通地下歩行空間と「本ビル」の全面接続：地上と地下の連続性を高め、都市レベルでの回遊性を誘発。
- ④ 立体道路制度の活用：「本ビル」に道路（地下歩行空間からの階段とエレベータ）を取込み、歩道の広がり確保。
- ⑤ 眺望ギャラリー「テラス計画」：赤れんが庁舎と「広場」の眺望ギャラリーを設置し、「広場」と共同イベントを開催。
- ⑥ 辻広場とオープンカフェ：「広場」と「本ビル」の賑わいが相互に魅力を高め合い、誰もが気軽に憩える空間。
- ⑦ 地冷プラント：周辺建物や地下歩行空間にもエネルギーを供給。

「広場」は、赤れんが庁舎の軒蛇腹やコーナーストーンを踏襲し、上記敷地ともシームレスな空間としている。

## □施工の特徴（工法の特徴、施工上の配慮、工夫等）

「本ビル」は、1階の床を先行設置して、地下・地上躯体を同時に施工する工法の採用により、地下3階の地冷プラントへの引渡し時期を厳守し、全体工程の短縮を図った。「広場」は、土木遺産である「木塊舗装」「銀杏並木」の保全と継承を通して、札幌/北海道らしい観光資源の質的向上を目指した。大正13年に施工された木塊舗装は保全措置を講じた上に新たなレンガ舗装で仕上げ、一部は広場内モニュメントとして活用・展示している。樹齢100年を超えるイチヨウは生育環境改善のため、大型の植栽柵に改修して透水性・通気性を確保した。



撮影：日本設計



撮影：ハレバレセッション



撮影：川澄・小林研二写真事務所



撮影：川澄・小林研二写真事務所

## 審査講評

札幌の中心部に初めて都市的な広場ができた。完成した北3条広場は、かねてより札幌市が中心部の将来像を描く中で、赤レンガ庁舎を起点とするこの地区が他とは異なる特別な空間と位置付けていた。平成19年には道路から広場へ都市計画上的の変更手続きをした。また、市の都心まちづくり計画の中では、北3条広場を札幌駅前通「にぎわいの軸」に直行する「うけつぎの軸」の基点と捉え、象徴的な骨格軸として沿道との連携をより一層強化する方向性が示されている。

これらの先見的な数々の施策を背景として、応募者はこの地区全体に対して都市再生特別地区の制度を利用し、公共空間に対する貢献として市街地の新たな広場を整備した。そのデザインは、広場アイストップの赤れんが庁舎の素材や色彩、あるいはディティールなどから引用し、赤レンガ舗装下の歴史的資産にも注意を払いながら、周辺環境と連続して馴染ませる工夫がされている。広場の管理運営は市の指定管理者が行い、年間を通じての様々な魅力的な催事が沢山の市民や国内外の観光客を引き付けている。

都心の広場空間は、接する周辺の建物の地上階とどのような関係を持つかによってその魅力は大きく変わる。この広場の魅力は、札幌三井JPビルディング地上階北側に接するほぼ全幅がオープンカフェであり、4階までの低層部の面は全てが飲食系商業施設の客席となり、広場とは見る見られる関係となっていることだ。地上階の各方向出入口も、大きさなものとならずに謙虚な開口で外部と接続している。さらに、建物内の主動線から離して角に配置された落ち着いたあるアトリウム2階からは、広場に植えられた樹齢100年の銀杏並木の樹冠を目前に眺めることができる。札幌駅より南に延びる地下歩行空間とは建物の地下階でゆったりと接続し、人々の往来を受け止めながら地上階へと誘っている。札幌三井JPビルディングそのものも、飲食系商業店舗が入居する低層基壇部と業務系機能が集積する塔状の高層部分で明快に構成され、縦線が強調された外装デザインも周辺と調和している。

このように都心の業務地区が都市計画などの様々な制度を活用しながら、立体的に人々の回遊を生み出し、賑わいと落ち着きと歴史の風格を併せ持った地区として正に総合的に再生させたことを高く評価したい。ここに至るまでの長い期間、多くの産学官関係者がたゆまず目指した、街をさらに魅力あふれるものとしたいという思いがついに結実した。質の高いアーバンデザインモデルとして、皆に愛される広場を創った関係各位に敬意を表したい。

これらの点を踏まえ、「札幌三井JPビルディング 札幌市北3条広場」は、美しい景観形成に寄与し地域社会の発展に大きく貢献したとして高く評価し、今年度の北海道赤レンガ建築賞を贈る。

(北海道赤レンガ建築賞審査委員長 大野 仰一)

こんにちは！ 情報委員会です。皆さんの活動取材に行きます。

留萌へ

講師となる建築士を増やそう！

取材者 高松 徹（上富良野支部）



「建築士による住教育出張講座」の講師を育成する建築士向けのセミナーが、7月30日（土）に留萌市で開催されました。この講座は、高校生に「住まい・暮らし」への関心を持ってもらうことを目的として、学校へ建築士を派遣して家庭科授業を行うもので、平成25年度から始まり昨年までに21校で実施されています。本セミナーは、より多くの学校へ派遣するため講師となる建築士を増やそう！と開催されたものです。

参加者は留萌支部等の建築士10名と留萌高校の先生2名で、実際の授業と同様に「間取りキット」を使い、物件選択からプランニング、作図までを行う「一人暮らしを想定した住まいの設計」を体験しました。一心不乱に手を動かして一気に仕上げた（しかも色付きで）強者の傍らで、“俺、施工メインだからプランニング苦手…”との弱音やため息もありましたが、最後の作品発表では要点をしっかりと押さえた作品ばかりで“いいね！さすがだね〜”との声が多く上がっていました。講師からは、“1畳”が

イメージ出来ない生徒のため、床にテープを貼りスケール感を持たせた工夫や授業の達成感の話もあり、参加者の“教えた！”という意欲も高まったのではないのでしょうか。

こうしたセミナーを受けた多くの建築士が、地域で高校と連携して講座を進めることで将来建築士を目指す子どもたちが増えることを期待します。



講座の流れを聞く参加者たち



悩む・・・建築士



最後に作品を発表

函館へ

マイ箸作りで職人気分！

取材者 森 勝利（日高支部）



10月の全国大会（大分大会）で北海道代表として地域実践活動発表に臨む函館支部青年委員会。そのテーマとなっている『木で遊ぼう！マイはし作り体験』が7月30日（土）函館市内で開催されました。道南地域の郷土樹種ヒバ材を使用したマイはし作りを通じて、子ども達に職人気分を味わってもらうとともに、木育の普及、さらには本旨である建築への興味拡大を図ろうとするもので、参加者は、専用の台に木材を固定しカンナで箸の形に削り、紙やすりで仕上げた後、思い思いの模様塗りに塗料を塗っていき、世界に一つだけ、いや、一膳だけの箸を完成させます。ある程度まで箸の形にカンナ掛けを行った木材を人数分用意するなど事前準備に課題はあるものの、対象者を「親子」とし、一緒に作業してもらうことで、当日のスタッフの少人数化を図ったり、塗料に試供品を使用したりと、主催者側の創意工夫も随所に見られました。向平委員長は「何もかも手探り状態で、参加希望者全員を受け入れられなかった

1回目の反省を踏まえて、前回から午前・午後の部に分け、それぞれ定員を設け事前予約制とし、3回目となる今日は、手づくりの乾燥機を用意しました。」と語り、回を重ねるごとに成長している点を強調していました。まさに、順風満帆。自信をもって、全国に函館の取組を届けてくれるでしょう。



説明を熱心に聴く親子



緊張のカンナ掛け



思い思いの模様づくり

# 避難所運営ゲーム (HUG)

被災地応急支援委員会 池田 浩 司

平成になってから毎年の様に大きな地震等の自然災害が発生し被害をもたらしています。直近では今年4月に発生した震度7の熊本地震、死者81名負傷者1,684名、最大時避難者数約184,000人という状況は皆様の中でも記憶に新しいことと思います。このような地震大国日本で大地震が発生した場合、家屋の倒壊や津波、火災、山・がけ崩れなどにより、被災した多くの人々が避難所での生活を強いられることとなります。そこで災害発生直後での避難所運営の重要性に着目したのがHUG (ハグ) です。

HUGってご存知ですか？ HUGは平成19年に静岡県が開発した防災ゲームで、H (hinanzyo避難所)、U (unei運営)、G (gameゲーム) の頭文字を取ったもので、英語で「抱きしめる」という意味です。避難者を優しく受け入れる避難所のイメージと重ね合わせて名づけられました。この避難所運営ゲームHUGは、避難者の年齢、性別、国籍やそれぞれが抱える事情が書かれたカードを、学校等の避難所に見立てた平面図にどれだけ適切に配置できるか、また避難所で起こる様々な出来事にどう対応していくかを模擬体験するゲームです。



HUG実施中

しかし静岡県が開発したHUGは、北海道の厳しい寒さや積雪が考慮されていなかったり、東日本大震災で得た教訓が反映されていないなど北海道で考えた場合、内容不足であるとのことから、今年、北海道よりこれらの内容不足を考慮した北海道オリジナル版「愛称「Doハグ」」が出され各振興局や関係部署或いは北海道建築士会等の団体にも紹介(貸出)されました。

これを受けて北海道建築士会被災地応急支援委員会と女性委員会の共同で平成28年7月16日(土)、北海道自治労会館にて参加者約30名でHUGが開催されました。

## Doはぐの特徴



- ・屋や夜など時間経過を示す「情報提供カード」
- ・ユニバーサルカードデザインの採用
- ・避難者に高齢者や要配慮者など「災害弱者」の観点を多く含む



避難所に見立てた平面図への配置

読み手役が次々とカードを読み上げ、そのカード内容(ペット、既病者、外国人、高齢者、食料、物資、トイレ、ボランティア等の対応)をどの様に扱うか即答即決が求められます。はじめて参加される方の中にはその速さや次々来る課題対応に手間取る方が大勢いました。

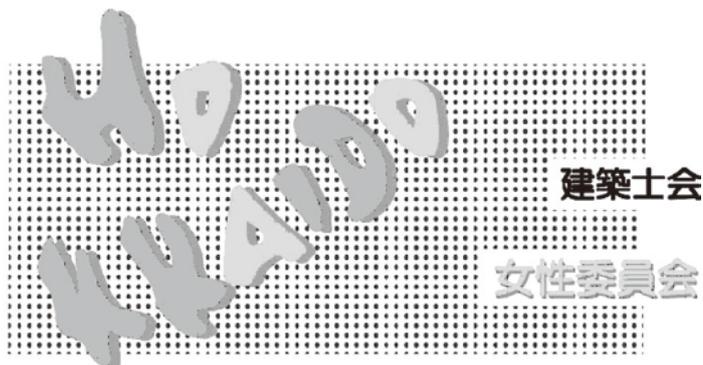


HUGテーブル発表

しかし、このような訓練(ゲーム)を体験することにより運営意識が高められることは確実にであると実感しました。

是非、皆様もこの避難所運営ゲームHUGに参加し、イザという時に備えて頂ければと思います。

No. 78



**全建女参加から  
奈良まち歩きへ**

蔦井 理恵 (旭川支部)

今回三つの目標を立てました。

1. 全国女性建築士連絡協議会の分科会「エネルギーと暮らし」に参加し、各地の省エネ対策を知る
2. カフェ「くるみの木」に行く
3. 歴史的建築物を訪問する

まずは分科会。意識高い系？な建築士は、そろそろ高気密高断熱住宅のもう一歩先を考えようとしていて、むしろ昭和な暮らし懐古…四季折々の暑さ寒さを味わう生活をもっと大切に、という流れには、少し驚きました。中には高気密高断熱住宅を敵視？しているような方もお見受け。「風や光、熱を機械で作る住まいがいくら省エネであっても、そこに暮らしの楽しさを感じることは出来ません。」と言い切るコメンテーターに「その通り！」と諸手を挙げては言い切れない道民である私。ただし本州でも収入が高い方ほど、住宅には快適性を求めるとのコメントには納得しました。壁が厚く窓の小さい西洋風住宅がたまたま気候に合っていた北海道と他地域とは、取り組み方が違って当たり前なのですけどね。要するに全国統



懇親会にて、せんとくんと

一基準の住宅ではなく、地域性を大切にという風潮が今後ますます強まっていくように感じました。

カフェ「くるみの木」は、もう何年も前から行きたいと思っていました。札幌や東川にあるような、ナチュラルな佇まいにおしゃれな雑貨も扱い、身体にもよさそうな料理を出すようなカフェは、大抵奈良の「くるみの木」からの影響を受けているわけですし、今回やっとその本家本元を巡礼することが出来ました。オーナーは「民芸」に傾倒してカフェを始めたとのこと。なるほど確かにインテリアや雑貨はとてもミニマルでシンプル、素朴なデザインのものばかり。憧れや好きな気持ちをカタチにするって大変そうだけど、いいな。やはり本家は別格の味わいで、大変刺激になりました。

歴史的建築物探訪では、純和風建築がある意味奇妙ともいえる重文の奈良基督教会の日曜礼拝に参加。信者の宮大工が建てたという見事な格天井を眺めつつ、牧師様の説教を聴き、祝福に預かりました。近畿に行くと、どうしても京都大阪神戸中心になってしまい、スルーしがちな奈良ですが、今後は私にとって無視出来ない地域になりました。



日本聖公会奈良基督教会 礼拝堂

**「Doはぐ」体験!!  
建築士と避難所運営模擬体験  
金子ゆかり (釧路支部)**

今年4月、HUG（避難所運営ゲーム）の北海道版が完成し、いよいよ貸出しがスタートしました。

これを受けて釧路支部では、去る5月30日、釧路東高等学校へ向き「Doはぐ」研修会を行って参りました。東高校は多方面にわたり被災地を支援する活動を継続している高校です。様々な体験を重ねているうち「自分の学校も避難所だ。もしもの時はどうなるのだろう」と疑問を持ち、高校生の声から釧路支部と一緒にHUGをする事になったのです。

研修当日は支部長と女性委員会メンバーが講師として学校を訪問。生徒会執行部や教員と共に避難所としての学校の利用の仕方について検討を行いました。



先生も生徒も一緒に体験！釧路東高校

しかし、回を重ねる毎に「これで良いの？」と思うのがHUG。被災地応急支援委員会と女性委員会が7月16日に札幌で開催した研修会にも参加してみる事にしました。普段は運営サイドにいる為、ゲームへの参加は久々。北海道版ならではの低体温症や車避難での積雪による事故防止の注意喚起、寒さへの対応について、改めて考えさせられました。冬の災害は備えがなければ命取り！建物の事を知らないとは解決できない問題も避難所には沢山あります。HUGは建築士の力を活用した地域貢献が可能です。それぞれの地域で更に頼られる存在になるべく、皆さんも是非と一緒に「Doはぐ」を！

## 北見支部

## 支部の活動と地域・社会の貢献



事務局  
小鷹 悠介

以前は、青年部の役員として活動を行っていましたが、今年度より、北海道建築士会北見支部の事務局となり、もうすぐ半年になります。

今までは、支部の事業やブロック協議会、全道大会等に参加させていただき、建築士会を通して知り合いや仲間が増え、とても有意義な経験をさせていただきました。

これからはそれらの事業の計画を行い、参加者に楽しんでいただき、それらを通して地域社会に貢献できる活動を行っていききたいと思います。

北見支部では建築士の日事業としてビールパーティーを行っております。

毎年、パーティーの収益の一部から福祉施設団体

への車椅子の寄贈を行っていることに加え、今年度については会場に募金箱を設置し、その募金とパーティーの収益の一部を熊本地震の被災地に義援金として寄付する活動を行いました。

事務局になって日は浅く、不慣れなこともございますが、これからも建築士会の事業を通して地域社会と交流し、身近に役立つ建築士がいることを知っていただける活動を行っていききたいと思います。

また、自然災害によって、被災を受けた地方の助けになる、地域境界線を越えた支援活動を行いたいと思います。



北見支部2016 ビールパーティー

## 本 部

## 第62回全国大会実行委員会開催される



副会長  
吉木 隆

第62回全国大会実行委員会の第1回会合が開催地の函館で8月21日(日)に開催されました。3年後の平成31年に開催される全国大会の準備が、いよいよ始動しました。当日は会合の前に主会場の「函館アリーナ」のメインアリーナ・サブアリーナ・多目的会議室等を施設管理者の案内で、大会イメージに適合しているかを視察し、概ね大会会場として支障無いことを確認しました。

その後函館支部に会場を移し、実行委員会が行われました。高野会長より「本部・支部の隔てなく全員の連携・協力のもと大会成功に取り組むこと等」要望されました。実行委員長には、地元函館支部の山内支部長が就任されました。協議打合せ事項は①大会運営概要②大会開催日程・開催施設③大会テーマ

④大会開催に係るスケジュール⑤大会予算・経理等が協議されました。大会開催日は平成31年(2019年)9月21日(土)とすることで進め、大会テーマ等は総務・財務部会で広く会員から募集に向けた作業を進めて行くことになりました。以上の事項は9月2日開催の理事会に諮られ承認されました。北海道らしく函館カラーが出せる大会を目指して、全員で知恵を出しましょう。



メインアリーナ全景



多目的会議室の視察

## 笠原爺ィの釣り日誌

## ～DNAと背後霊「魚釣り八十八か所」の巻～

8

### 待っててくれた人

午後8時少し前、無事到着。積もる話や、魚の情報を載いた。車で寝るつもりが、ご好意に甘え、風呂へ入れて貰い、その儘、泊めて戴いた。

ソノ「有難い人」とは、誠に奇縁、同じ病で入院、同室となり、僅か1ヶ月で、肝胆、相照らした人。

ソノ人は、エンジン整備の神様。昭和38年、三沢の米空軍基地で、4発B29のエンジンが故障し、日本で直せないか?、となった時、白羽の矢が立ち、稚内空港へ空輸されたエンジンを全部バラシて修理、組立て直して見事、機を飛ばした人。

日本の誇るエンジン整備のスペシャリストだ。

こんな凄い人に、友達付合させて頂くだけでも、有難いのに「お誘い」を受けたのだ。

行かざあなるめェ!

翌日、ソノ「有難い人」に、ご自分の車 運転で、オホーツクの浜鬼志別から日本最北端の、宗谷岬、ノシャップ岬を廻って、「釣り場情報」は勿論、観光案内までして載いた。感謝、感激、雨、霰。 つづく



米空軍 B-29 爆撃機

## ● 集まれ「会誌送付支援隊」隊士 ●

毎月1日に会員の皆様に直接会誌が届くように成ってから5年半になります。色々な利便性と、情報の共有化が図られていて一括送付の良さが、ここに有ります。

会誌が皆様に届けられるのは、送付作業を本部事務局全員が担っているからです。四千数百部の送付作業は、①封筒の住所・配達指定日ラベル張り②同封物の支部別仕分け③会誌建築士・北海道建築士・同封物を一緒に封筒に挿入、封印します。この作業は毎月末に日常業務の合間にこなして頂いております。かなりのオーバーワークを強いている状況で、改善すべきと案じていました。私自身時間に余裕が出来ましたので、お役に立てないかと5月から4回程、送付作業の封筒詰めを体験しました。月末に時間的に余裕がある会員が集合し、封筒詰め作業を肩代わり出来れば、事務局の皆様の業務軽減が図られます。

ここに「会誌送付支援隊」を結成することを宣します。この支援隊は任意団体とし、あくまでもボランティアで、出入り自由です。建築士会活動の新しい参加行動を、一線を退いた会員で創り上げましょう。作業は毎月26・27日頃です。1回目の作業は10月に行います。詳細日程は本部事務局にお問い合わせ下さい。たくさんの参加を望みます。

会誌送付支援隊責任者 吉木 隆 (副会長)



会議室での会誌送付作業



事務室自席での会誌送付作業

## ◆ 道士会の動き

### 道本部の主な会議報告 (9月)

#### ◆ 第4回理事会

(開催日) 9月2日(金)

- (議題) 1) 平成28年一般会計収支予算の補正及び流用(案)について  
2) 平成28年一般会計事業報告及び収支状況報告(7月末)について  
3) 平成28年特別会計事業報告及び収支状況報告(7月末)について  
4) 第41回全道大会(室蘭大会)決意文(案)について  
5) 第62回全国大会について  
6) (一社)北海道建築士会表彰規程の改定(案)について  
7) 平成28年会費未納者の会誌送付停止時期(案)について  
8) 定款第6条に基づく会員の入会承認(案)について

### 関係機関等会議出席状況 (10月)

- 19日 (一財)北海道建築指導センター50周年 高野会長出席  
21日 日本建築士会連合会理事会(士会長合同会議) 高野会長・吉木副会長出席

### 道本部の主な行事予定 (10月)

- (開催日) 10月1日(土) 第41回全道大会(室蘭大会)  
(開催日) 10月29日(土) 第2回まちづくり委員会

## 編集後記

10月は陰暦で神無月(かんなつき)。日本中の神様が出雲大社に集まるという民間伝承で、逆に出雲は神有月(かみありつき)となります。ある出来事も見方を変えることによって世界観が広がります。

今月号から新しい取り組みとして、情報委員が自ら取材に出かけます。実際に現場で感じたことを記事にすることで活動そのものの再発見、より良い情報提供の方法を考えるきっかけになればと思っています。

情報委員会 早川 陽子(小樽支部)

## CPD認定プログラム(9月認定)

### ◆ 平成28年度応急危険度判定士認定講習会

《日程及び会場》10月24日(月) 13:30~15:30  
北海道自治労会館(札幌市)他15か所  
《単位数》2単位  
《問合せ先》(一社)北海道建築士会  
TEL 011-251-6076

### ◆ 応急危険度判定机上訓練

《日程及び会場》振興局主催:11月7日(月) 15:00~16:00  
胆振総合振興局(室蘭市)他7会場  
《単位数》1単位

《日程及び会場》建築士会主催:11月11日(金) 13:00~15:00  
オホーツク木のプラザ(北見市)

《単位数》2単位

《問合せ先》北見会場:(一社)北海道建築士会 TEL 011-251-6076  
その他会場:各振興局及び北海道住宅局建築指導課

### ◆ 塗装セミナー「塗装の基礎知識」

《日程及び会場》11月16日(水) 19:00~21:00  
かでの2.7(札幌市)

《単位数》2単位

《問合せ先》(一社)北海道建築士会札幌支部  
TEL 011-232-1843

## 10月開催講習会のお知らせ

- ・ 建築士定期講習 10月6日(木) 帯広市  
10月12日(水) 北斗市  
10月26日(水) 室蘭市
- ・ 応急危険度判定士認定講習会 10月24日(月) 札幌市
- ・ 監理技術者講習 10月14日(金) 札幌市

情報委員会委員長/早川 陽子  
副委員長/齋藤 勝哉・高松 徹・森 勝利  
委員/熊谷 智・柳山美保子・鈴木 雅人  
柏倉 晶憲

## 北海道建築士 No.230号

印刷 平成28年9月/発行 平成28年10月

編集・発行 一般社団法人 北海道建築士会  
〒060-0042 札幌市中央区大通西5丁目11番地  
大五ビル  
電話 (011)251-6076番  
URL <http://www.h-ab.com/>

印刷 株式会社 正文舎  
〒003-0802 札幌市白石区菊水2条1丁目  
電話 (011)811-7151番